調達価格低減に向けた取組について

2019年3月

四国電力株式会社

はじめに

○　2018年12月に開催された総合資源エネルギー調査会 省エネルギー・新エネルギー分科会 電力・ガス事業分科会 再生可能エネルギー大量導入・次世代電力ネットワーク小委員会 において、

既存ＮＷコストの低減と、再生可能エネルギー電源の接続費用の低減を目指すため、まずは、以下 ３品目（※）について、仕様統一化に取り組むべき

※ 架空送電線（ACSR/AC）、ガス遮断器（66・77 kV）、地中ケーブル（6 kV CVT）

旨が提言されました。（次頁参照）

○　本提言を踏まえ、当社は、今回、対象となる３品目の仕様統一化の達成に向けたロードマップを取り纏めましたので公表いたします。

○　当社は、引き続き、社内に設置した経営改革特別委員会のもと、調達価格の低減をはじめとした経営効率化の課題に取り組むことにより、送配電コストの低減を目指してまいります。

（参考）仕様統一化の対象品目について

第11回 総合資源エネルギー調査会 省エネルギー・新エネルギー分科会／電力・ガス事業分科会
再生可能エネルギー大量導入・次世代電力ネットワーク小委員会（2018.12.26開催）資料４より抜粋

61

仕様統一化に取り組む品目

- 既存ネットワークコストの低減と、再エネの接続費用の低減を目指すため、まずは、調達額が大きく、新規の電源アクセスの際にも使用される以下３品目について、仕様統一化に取り組むこととしてはどうか。

対象品目	イメージ図	選定理由	統一化の方向性
架空送電線（ACSR/AC）		• 再エネ導入に係る新設工事でも追加的に使用される。 • 全国的な調達額が大きい。 ※主に超高電圧で使用される耐熱性の高いアルミ線（TACSR）も存在するが、電源アクセスの際に必要となるケースの多い、本製品について検討。	仕様数2 → 全国大で統一 ※アルミ送電線には通常の仕様(ACSR)と、耐食性の高いもの(ACSR/AC)が存在するが、価格差が小さいため、耐食性の高い仕様に全国で統一。
ガス遮断器（66・77kV）		• 再エネ導入に係る新設工事でも追加的に使用される。 • 各社の仕様が異なっており、統一化による効果が大きい。	10社個別仕様 → 全国大で統一
地中ケーブル（6kVCVT）		• 再エネ導入に係る新設工事でも追加的に使用される。 • 各社の仕様が異なっており、統一化による効果が大きい。	10社個別仕様 → 全国大で統一

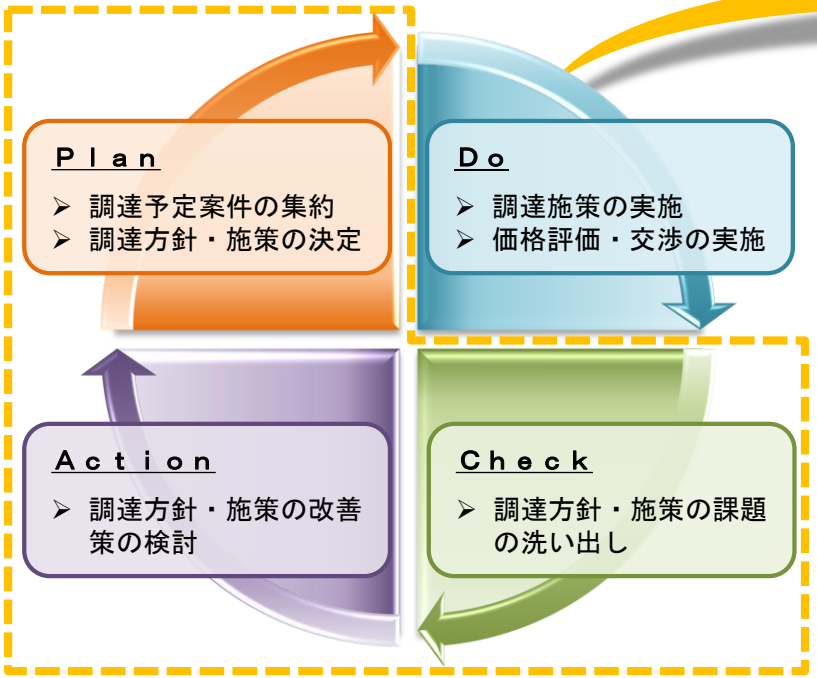
当社のコスト低減に向けた取り組み＜経営改革特別委員会の設置＞

○　当社は、社長を委員長とする「経営改革特別委員会」の下、安全・安定供給の維持を前提に、一層の経営体質の強化を図る観点から、コスト削減等を重点課題として掲げ、これまで取り組んできた経営効率化施策を総点検するとともに、課題解決に向けて取り組みを加速しています。

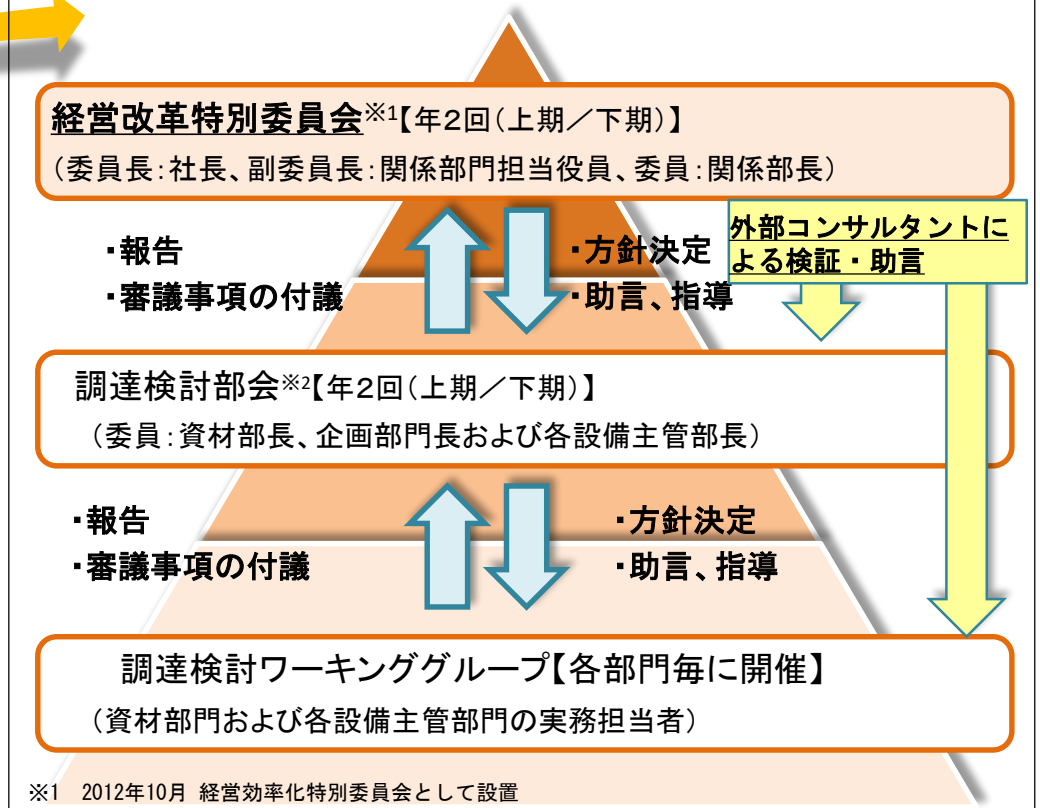
○　また、「経営改革特別委員会」の下部組織として「調達検討部会」を設置し、資材部門と各設備主管部門が一体となって、調達価格の低減に向けた検討に取り組んでおります。

（調達検討部会の主要テーマ：競争発注比率の向上、仕様の統一・簡素化）

調達価格の低減に向けた取り組み



経営改革特別委員会の組織体制

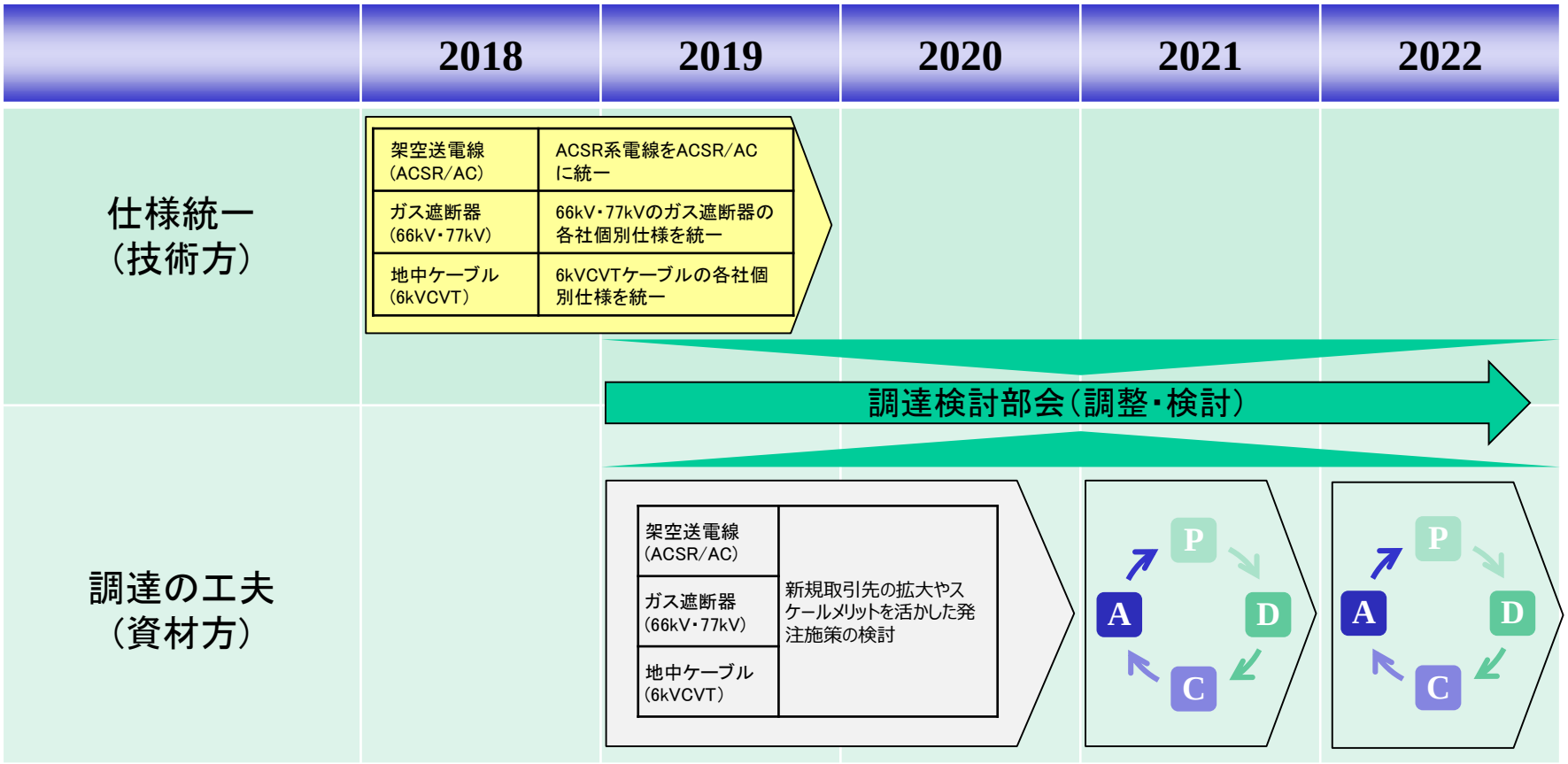


※1　2012年10月　経営効率化特別委員会として設置
※2　2013年１月　設置

ロードマップの全体像

○　仕様統一に向けた検討を実施し、新規取引先の拡大やスケールメリットを活かした調達コスト低減を図ります。

○　2021年度以降は今回の取組に対する分析を行い、ローリングすることで更なる改善を図ってまいります。



仕様統一の内容

◇対象品目

【架空送電線】

- ACSR系電線としては、一般的に使用してきたACSRと、より耐食性が高いACSR/ACがありますが、2019年度末を目途に全国大でACSR/ACに統一することで、スケールメリットによる価格低減を目指します。

【ガス遮断器】

- 2019年度末を目途に66kV・77kVガス遮断器の各社仕様を統一することで、メーカー製造工程の効率化やスケールメリットによる価格低減を目指します。

【地中ケーブル】

- 2019年度末を目途に6kVCVTケーブルの各社仕様を統一することで、メーカー製造工程の効率化やスケールメリットによる価格低減を目指します。

◇具体的な取組内容・施策

【架空送電線(ACSR/AC)】

- ACSR系電線にはACSRとACSR/ACがあるが、それぞれのスペック等を比較するなどして、全国大でACSR/ACに統一することによる不具合がないかを検証。
- 新設のみならず、設備更新の機会を捉えて、既設についてもACSR/ACで対応していく。

【ガス遮断器(66kV・77kV) 】

- 各社の現状仕様を把握し、標準仕様を検討することでスケールメリットを拡大する。
- 新設のみならず、設備更新の機会を捉えて、既設についても新仕様で対応していく。

【地中ケーブル(6kVCVT) 】

- 各社の知見を反映した試験方法、材質等の各社個別仕様の取捨選択を実施し標準仕様を設定。
- 新設のみならず、設備更新の機会を捉えて、既設についても新仕様で対応していく。

調達の工夫

○　仕様統一化を実施したうえで、「新規取引先の拡大」による競争発注の一層の活性化やスケールメリットを活かした「まとめ発注（共同調達を含む）の拡大」など各種発注施策を効果的に展開してまいります。

○　「統一化品調達割合」、「競争発注比率」、「取引先数」、「施策実施率」について、下表のとおり目標を設定し、その達成に向けて取り組んでまいります。
（発注施策の詳細については次頁参照）

分類	項目	説明	実績値（2018年度）			目標値（2022年度）		
			架空送電線(ACSR/AC)（%）	ｶﾞｽ遮断器(66kV･77kV)（%）	地中ｹｰﾌﾞﾙ(6kVCVT)（%）	架空送電線(ACSR/AC)（%）	ｶﾞｽ遮断器(66kV･77kV)（%）	地中ｹｰﾌﾞﾙ(6kVCVT)（%）
仕様統一状況	統一化品調達割合	仕様統一品の購入（個別仕様品の排除）によりコスト削減を目指す	99.9	—	—	100	100	100
競争拡大	競争発注比率	競争環境構築によりコスト削減を目指す	100	100	100	100	100	100
	取引先数 （　）内は増加数	競争環境の活性化を図る	3社	6社	6社	4社以上 （1社以上）	7社以上 （1社以上）	7社以上 （1社以上）
発注施策	施策実施率	各社で実施している調達の工夫を展開し、コスト削減を図る	50	50	50	100	100	100

調達施策の実施状況

（2018年度時点）

発注施策（買い方）	内容	実施状況		
		架空送電線(ACSR/AC)	ガス遮断器（66kV・77kV）	地中ケーブル（6kVCVT）
新規取引先開拓	競争環境の活性化のため国内外から新規取引先を開拓	×	×	×
まとめ発注	契約時期を合わせて調達量を増やしスケールメリットを追求（共同調達を含む）	○	○	○
早期発注	取引先の生産計画平準化を目的として概略設計の状態で早期に発注	○	○	○
シェア配分競争	複数の案件をまとめて提示し、競争の結果により取引先にシェアを配分	×	×	×
コスト低減提案の募集	技術提案に限定せず、調達方法など調達全般に関するコスト低減提案を募集	○	○	○
複数年契約	通常の契約期間を長期化することで優位な条件にて契約する施策	×	×	×
施策実施率		50%	50%	50%

以　上